

ら見ると主将としての私の責任をつかれても仕方がなく深くお詫び致します。

来年度は幸い私以外卒業もない前者的

徹を踏まぬ様今年度の不成績を苦い薬として奮闘されんことを期待致します。(木下記)

◇ラグビー部

去年不振のラグビー部も新春の希望と共に、去年の恥辱をはらさんと、先輩諸兄の指導の上に立つた。

創立以来のスポーツ、男性スポーツの華ラグビーは本校創立の精神とも全く相通じているのである。

融和と共同のラグビー精神を養い、先輩の偉業をつがんとして、選手一同は勇んで練習にはげんだのである。その甲斐あつて、春の市民大会前の練習試合には、堂々他の高校を圧倒し岩高復活を世に知らし、岩手か高松かと覇を争つた。

盛岡市民体育大会

五月五日六日 (雨大グラウンド)

五日は天候悪く雨中戦であつたが、新鋭柏

高校と対戦して

決勝 岩手 14 — 8 — 5 — 10 高松

勝つた。体力を誇る高松に勝つた。岩高強しく云われるまでには、選手一同の努力があつたのだ。

この日高松はFWの体力を利用して球をとつたがHBの本吉の奮闘目ざましく敵のハーフをつぶして、この技術により高松に勝つたのである。優勝!あゝ一ヶ年ぶりに覇権は、

岩手高校のもとに握られたのである。選手はうれし涙にむせんだのである。遂に盛岡制覇は成った。今度は、岩手県制覇である。

夕方の練習では、カブトの緒をしめよと練習にはげもうとした時修学旅行等ということがあつて充分練習が出来ずこれにTB熊谷の病気、高松の怪我、HB角掛等々五、六人不調のまゝ、高体連に出場した分けである。

高体連 花巻小学校グラウンド

一回戦、宮古高校と対戦

あゝ無念!優勝候補随一の岩手高校が名もない歴史も新しい宮古高校に負けるなんてことになると不振なのである。天は我等に恵みをたれて下さつた。

大罪をおかした岩高始まつていらいないことである。

これから復活の旗をかざして血の出る様な縮習が始つた。ロングランニングを始めた。体力をつける為に、今日は黒石野、明日は滝沢へという様に、こうして悲運のうちにも夏休みを迎えた。

夏休み

県民大会兼国体豫選盛岡地区ラグビー豫選七月二十五日、医大グラウンド。平館高校と対戦、先輩の指導のもとに次の様に勝つ。

岩手 9 — 0 — 5 平館

出場権を握る。

八月十六日、十七日と遠征して来た仙台一高ラグビー部と対戦す。

実力を得る為の好機と練習に練習をつみ結局次の様に堂々と勝つ。

十六日、岩高と盛一高との混合軍で対戦。

十七日岩高のみにて対戦

岩手 23—3 仙台一高

かくして好調のうちに夏休みが過ぎ県民大会及び国体豫選にそなえて必ず雪辱しようと助んだ。

九月七日—十一日合宿

ヨーチもいなかが校は選手お互に、もくもくとして練習をした。

機はおとずれた、春の恥辱を今こゝにはらしてくださいんと再出発した。

○県民体育大会兼国体豫選

九月十四日 医大グランド

第一回戦 一関高校と対戦

岩手 56 — 20—0 一關

久しぶりに好調を表して大差をつけて軽く勝つ。

準決勝、春の優勝校、高松高校と対戦、今年二度目の対戦である。

岩手 0 — 0—3 — 3 高松

ついに破れ去つた。苦労もむなしかつた。しかし次にと練習に励む。

○全国高校ラグビー大会岩手県豫選

十月二十六日。今年度最後のラグビー試合である。

一回戦黒高と対戦

岩手 6 — 3—3 — 6 黒高
ペナルティ勝

準決勝。三度高松高と対戦。

岩手 0 — 0—12 — 20 高松

覇を握られた。

あゝかくして今年も終つた。再度高松高に

覇を握られた。

この日及び前日は泥寧戦でFWの弱い我が校には不利があつたのである。負けて何といおうぞ。ラグビー精神からすれば敵ではあるが高松高は確に強かつた。

負けた岩高の復興はならなかつた。結局部員及びヨーチの不足と練習不足のため負けたのだ。

しかし下級生諸君、来年度にのぞみをかけ

る。必ずく勝つてくれ、岩手いや、青函の覇者となってくれ。ただそれのみだ。

先輩の偉業に傷つけた、我等卒業生は今去つて行く、悲しく無言のうちにただクーにも

二にも練習あるのみクの一言を残して。

医大グランド

(佐々木記)

彦三吉 厳昭二 则夫 見実 信徳 大夫 実一 三
勝敬藤 利寛 美正良 善正 哲 敬宗

田川木田原花々吉掛沢橋谷藤橋橋坂
上外鈴吉緒立佐本角藤高熊工高高佐花

F.W H.B T.B F.B M

◆卓球部

○第四回南青森北岩手高校卓球大会

於青森県三戸町三戸中学校(五月三日)

一回戦 岩高 3—0 三戸高

二回戦 岩高 3—1 八戸水産高

三回戦 岩高 3—2 田辺高(前優勝校)

決勝戦 岩高 2—3 八戸高

T下河原 1—2 篠間

M 2 小 沢 0—3 伊藤

2 小 沢 0—3 伊藤

4 村 上 2—1 伊藤

L箱 石 0—2 上野

本年度最初の試合で我々は決勝戦まで進み

よほどの自信を得た。特に下河原君のシュークハンドグリップによる守備範囲の広いカツティングは、粘り強さを示し相手の意表をつ